

## AEDを用いた除細動の手順

### ① 119番通報とAEDを持って来る

傷病者に反応（意識）がない場合には、直ちに協力者を求め、119番通報とともにAEDを持ってくるように依頼します。協力者がいない場合には、AEDがすぐ近くにあることが分かっているならば、救助者自身が自分でAEDを取りに行きます。

※駅や公共施設では、AEDは人目につきやすい場所に設置されています。図のようなAEDのマークがついたボックスの中に置かれているのが一般的です（図3-24、25）。

※AEDを取り出すためにボックスを開けると、警報ブザーが鳴るようになっているものがあります。ブザーは鳴ったままでよいので、AEDをボックスから取り出して傷病者のところに戻ります。



図3-24



図3-25

### ② AEDの準備

心肺蘇生を行っている途中でAEDが届いたら、救助者が直ちにAEDを使う準備をし、協力者に心肺蘇生を交替します。

また、協力者に心肺蘇生を交替する場合は、心肺蘇生（特に胸骨圧迫）を中断しないようにします。

※AEDを置く位置は決まっていますが、傷病者の頭の近くに置くと操作がしやすくなります（図3-26）。



図3-26

### ③電源を入れる

まずAEDの電源を入れます。電源を入れたら、以降は音声メッセージと点滅するランプに従って操作します。

※機種によって、電源ボタンを押すタイプと、ふたを開けると自動的に電源が入るタイプとがあります（図3-27、28）。



図3-27



図3-28

### ④電極パッドを貼る

傷病者の前胸部の衣類を取り除き（ボタンやホックが外せない場合や、服を取り除けない場合にはケースに入っているハサミなどで衣服を切る）、AEDのケースに入っている電極パッドを袋から取り出します。電極パッドの一枚を胸の右上（鎖骨の下で胸骨の右）、もう一枚を胸の左下側（脇の下5～8センチ下、乳頭の斜め下）に貼り付け、その際、電極パッドと肌の間に空気が入らないように、肌にしっかり密着させます（図3-29、30）。

※貼り付け位置は、電極パッドや袋にイラストで描かれています。

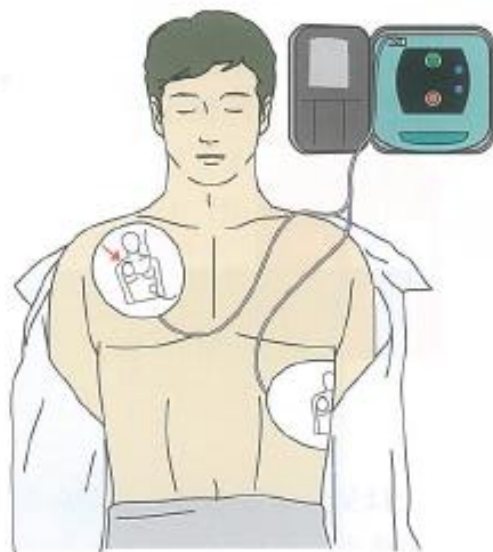


図3-29



図3-30

### ◆乳児・小児の場合◆

未就学児や乳児には、小児用電極パッドを使用します。貼り付け位置は、成人と同様に胸の右上と左下側に貼るか、体格が小さい場合や乳児の場合には、パッド同士が接触しないように、心臓をはさむように胸と背中に貼ります（図3-31）。小児用電極パッドがないときは、成人用電極パッドで代用します。

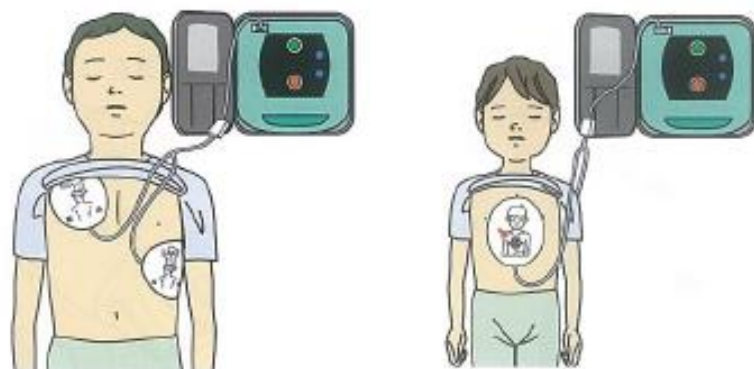


図3-31

※成人の傷病者に小児用電極パッドを使用しないように注意してください。

※機種によっては、電極パッドから延びているケーブルの差込み（コネクター）をAED本体の差込み口に挿入するタイプや既にケーブルが接続されているタイプがあります（図3-32、33）。



図3-32



図3-33

※電極パッドは成人・小児共用で、小児用キーを本体に差し込むタイプや、スイッチで小児用に切り替わるタイプがあります。（図3-34、35）。



図3-34



図3-35

### ◆特殊な状況◆

傷病者に電極パッドを貼り付ける際に、特殊な状況下では気をつけなければならないことがあります。電極パッドを適切に貼らないとAEDの効果が減少したり、傷病者のやけどや救助者の感電の原因にもなりますので、注意しながら対処する必要があります。

## ⑤心電図の解析

電極パッドが肌にしっかり貼られると、「傷病者から離れてください」という音声メッセージとともにAEDは心電図の解析を自動的に始めます。救助者は心肺蘇生を中断し、解析の妨げにならないように周囲の人にも傷病者から離れるよう伝え、誰も傷病者に触れていないことを確認します（図3-41）。



図3-41

## ⑥電気ショックと心肺蘇生

### ア) 電気ショックが必要なとの音声メッセージが流れた場合

電気ショックが必要な場合には、「ショックが必要です」などの音声メッセージとともにAEDは、自動的に充電を開始します。周囲の人に傷病者の体に触れないよう声をかけ、誰も触れていないことをもう1度確認します。

充電が完了するとAEDは、連続音やショックボタンの点滅とともに電気ショックを行うように音声メッセージが流れるので、傷病者に誰も触れていないことを確認してショックボタンを押します（図3-42）。



図3-42

ショックボタンを押すと、傷病者に強い電気が流れ、傷病者の体が一瞬ビクッと突っ張ります。電気ショック後は、AEDの音声メッセージに従って、直ちに胸骨圧迫から心肺蘇生を再開します。

※電気ショックに成功した場合でも直後の自己心拍は弱く、循環の回復には至っていないときが多いことから、直ちに心肺蘇生を再開します。